

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた

授業のデザイン

新学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが示されています。本紙は、改訂の趣旨を踏まえた授業の例などを示しています。各学校において、自校の年間指導計画や生徒の実態等を踏まえ、確かな学力を身に付けさせる授業をデザイン（構想）するための参考資料として御活用ください。



中学校・社会



社会科の目標及び学習指導要領改訂のポイント

1 社会科の目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 学習指導要領改訂のポイント

- ◇基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を重視する。
- ◇社会的事象の意味、意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明するなどの学習を通して、社会的な見方や考え方を養う。
- ◇社会参画、様々な伝統や文化、宗教に関する学習などを重視する。

◇地理的分野

- ア 分野目標についての見直し
- イ 内容構成についての見直し
- ウ 世界に関する地誌的認識の重視
- エ 動態地誌的な学習による国土認識の充実
- オ 地理的技能の育成の一層の重視
- カ 社会参画の視点を取り入れた身近な地域の調査

◇歴史的分野

- ア 「我が国の歴史の大きな流れ」を理解する学習の一層の重視
- イ 歴史について考察する力や説明する力の育成
- ウ 近現代の学習の一層の重視
- エ 様々な伝統や文化の学習の重視
- オ 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの充実

◇公民的分野

- ア 現代社会の特色や現代社会における文化の意義や影響に関する学習の重視
- イ 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習
- ウ 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を生かした内容構成
- エ 社会の変化に対応した法や金融などに関する学習の重視
- オ 課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの重視

事例と関連のある本県の重点とする目標

－「指導の指針」より 栃木県教育委員会－

- 主体的な追究活動を通して、基礎的・基本的な知識、概念や技能の確実な習得と活用を図り、社会的な見方や考え方を養う指導計画の工夫改善
- 作業的・体験的な学習、問題解決的な学習の充実（言語活動の充実）
- 評価の工夫改善（指導と評価の一体化、妥当性・信頼性の高い学習評価）

【参考文献】

- ・「中学校学習指導要領解説 社会編」 文部科学省 平成20年9月
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 社会】」 国立教育政策研究所 平成23年11月
- ・「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】」 文部科学省 平成24年6月
- ・「指導の指針」 栃木県教育委員会 平成25年3月
- ・「とちぎの子どもの基礎・基本」 栃木県教育委員会 平成24年1月
- ・「平成23年度「とちぎの子どもの基礎・基本」習得状況調査の結果と授業改善に向けて」 栃木県教育委員会 平成24年3月
- ・「とちぎの子どもの基礎・基本 問題事例集〔活用編〕社会」 栃木県教育委員会 平成24年1月
- ・「新学習指導要領に基づく評価規準設定のための参考資料（中学校編）」 栃木県教育委員会 平成23年12月

◇本リーフレットは栃木県総合教育センターホームページ(<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>)から、ダウンロードできます。

◇問い合わせ先 栃木県総合教育センター研究調査部 TEL028-665-7204

「とちぎの子どもの基礎・基本」習得状況調査の結果より、生徒は社会科の授業において事象間に関連付けて捉えることが苦手であることが分かりました。そこで本事例では、ある地理的事象を他の地理的事象と結び付けて考察し、表現させる動態地誌的な学習を行います。生徒が資料を活用して思考・表現する活動を多く取り入れ、国土認識の充実を図ります。

指導のねらい

産業を中核とした動態地誌的な学習を通して、中部地方の地域的特色を捉えることができるようにする。

＜学習指導要領との関連＞

【第2学年】（2）日本の様々な地域 ウ 日本の諸地域 （ウ）産業を中核とした考察 中部地方

単元の例

＜単元の構想をする。＞

- ① 中部地方の地域的特色をどのように捉えるか。（生徒に中部地方をどのように捉えさせたいか。）
- ② 地域的特色を示す地理的事象はどんなことがあるか。
- ③ 学習課題を決定する。
- ④ 地域的特色を捉えさせるための学習活動や内容、学習方法を考える。
- ⑤ 資料の収集と活用方法を考える。
- ⑥ 評価計画を作成する。（生徒の活動をどのように見取るか。）

動態地誌的な学習を取り入れた単元構成 発問例（資料）	静態地誌的な単元構成の例
1 中部地方の概観をつかむとともに、産業に視点をあてた追究活動を行う。 なぜ、中部地方の産業分布には違いが見られるのか。 （北陸・中央高地・東海の地形や気候、地方ごとの産業別人口の割合等の資料） 2 東海の特徴を考察する。 なぜ、東海は輸送機械工業が盛んなのか。 なぜ、東海は施設園芸農業が盛んなのか。 （工業生産額、人口分布、位置、交通網、輸送面等の資料） 3 中央高地の特徴を考察する。 なぜ、中央高地では時期をずらした野菜の栽培や果実の栽培が盛んなのか。 （農産物別生産額、月別出荷量、雨温図等の資料） 4 北陸の特徴を考察する。 なぜ、水田率の割合が高いのか。 なぜ、地場産業が発達したのか。 （水田率、米産出額、雨温図、地場産業分布図等の資料） 5 産業について白地図にグラフや図、表などの資料と簡単な説明文をつけて、中部地方の地域的特色をまとめる。	1 中部地方の概観をつかむ。 ① 日本における位置を確認する。 ② 県名と県庁所在地をまとめる。 ③ 自然環境についてまとめる。 ・山脈、川、平野、盆地等 ・気候（雨温図の読み取り） ④ 北陸、中央高地、東海の特徴についてまとめる。 2 産業についてまとめる。 （1）農業について ・北陸の米単作について ・中央高地の野菜栽培や果樹栽培について ・東海の茶やみかん等の栽培について （2）工業について ・愛知（豊田）の自動車工業と中京工業地域 ・諏訪盆地の工業の推移 （繊維工業→精密機械工業→電子機器） ・北陸の伝統的工業（地場産業） （3）その他の産業について ・中央高地の観光業等

評価に当たって

○グラフや表などの資料の読み取りから技能について評価するとともに、複数の主題図から考察した内容をもとに、思考・判断・表現について評価します。

留意点及び工夫点

- 複数の主題図をもとに結論を導き出させる指導を繰り返し行うことで、思考力・判断力・表現力等が身に付きます。
- （2）日本の様々な地域 イ 世界と比べた日本の地域的特色の学習内容の活用を図ることが大切です。
- 「この地域はどのような地域的特色が見られるか？」から「なぜこの地域ではそのような地域的特色が見られるのか？」の問を基本としましょう。つまり、「△△について調べ、まとめよう」から、「なぜ□□なのか」という事象の要因を考えさせる授業づくりを行うことが大切となります。
- 「環境条件」「他地域との結び付き」「人々の営み」に留意した学習活動に心掛けましょう。

キーワード

歴史的分野 歴史の大きな流れ 各時代の特徴 中世の日本

「とちぎの子どもの基礎・基本」習得状況調査の結果より、生徒は歴史上の主な出来事を並べ替える設問を苦手としていることが分かりました。つまり、歴史の流れの中でそれぞれの歴史的事象の関係を捉えることが充分ではありません。そこで、個々の歴史的事象が、全体の流れの中でどのような位置付けにあるかを明確にする単元を構想し、歴史を大きく捉えさせます。

指導のねらい

中世の学習内容の構造化を図り、様々な視点から時代を大観し表現する活動を通して、中世の特色を捉えることができるようにする。

＜学習指導要領との関連＞ 【第1学年】（3）中世の日本 （1）歴史のとらえ方 ウ

単元の例

中世とは、（※単元の最後に生徒の言葉で短く表現させる。）

●はワークシートに記入します。
①②③は1時間の題材名です。
ワークシートには記入せず、空欄にしておきます。

● 鎌倉時代の政治にはどのような特色があるのだろうか？

- ① 鎌倉幕府の成立は1185年か1192年か？（律令政治との比較：役職、地方支配、法令等）
- ② 「承久の乱」と「元寇」によって、世の中はどのように変化したか？
（武家政権の広がり：東国から京都、西国支配へ）

● 室町幕府はどのように成立し、どのような特色があるのだろうか？

- ① 建武の新政の理想と挫折（武家政権の中の天皇親政）
- ② 室町幕府と鎌倉幕府の似ているところ、違うところ（成立、所在地、役職、地方支配、経済基盤）

● 人々のくらしはどのように変化したのだろうか？

- ① 鎌倉時代の人々の生活の変化（二毛作、定期市）
- ② 室町時代の人々の生活の変化（農業と手工業、商業の発達）
- ③ 自治的な仕組みの成立（座、惣等）

● 東アジアとはどのような結びつきがあったのだろうか？

- ① 貿易の始まりと発展（日宋貿易、勘合貿易、琉球王国の役割等）
- ② 国内への影響（経済面、文化面）

● 中世の文化の形成を支えた背景は、どのようなことだろうか？

- ① 「一遍上人絵伝」からわかること（生活様式、新しい仏教等）
- ② 現代に結びつく文化の形成（社会の変化、禅宗）

● 応仁の乱によって、世の中はどのように変化したのだろうか？

- ① 地方の武士の台頭（将軍の地位の低下、下剋上等）
- ② 領国を拡大する戦国大名（分国法、城下町、商工業の発展等）

中世という時代

◎ 中世とはどのような特色をもった時代だろうか？

（※ 武士の台頭や民衆の成長等の視点からレポートを作成する。）

評価に当たって

○単元を通した学習内容を踏まえ、中世を大観してその特色を自分の言葉で表現させることで、思考・判断・表現について評価します。

留意点及び工夫点

- 「時代を大観する」に述べられている時代とは、「鎌倉時代」「室町時代」ではなく、「中世の日本」という捉え方をすることが大切となります。
- 「時代を大観し、表現する活動」とは、個別の事象をそのまま年表等に整理することや、学習内容の全般的な復習をすることではない点に留意しましょう。
- 単元を通したワークシートを作成することで、学習内容の関連を図ります。

「現代社会をとらえる見方や考え方の基礎」として、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」が示され、この見方や考え方をを用いて政治、経済、国際関係に関する諸事情を理解させることが求められています。そこで、身近な事例の学習を通して公民的分野の中心となる概念について具体的に考察させます。

指導のねらい

具体的な事例を取り上げて、「現代社会をとらえる見方や考え方の基礎」としての「効率」と「公正」等について考察することができるようにする。

<学習指導要領との関連>

【第3学年】(1) 私たちと現代社会 「イ 現代社会をとらえる見方や考え方」 効率と公正

授業の例

題材名 効率と公正の考え方から、不満の少ない並び方について考えよう。

学 習 活 動	教師の支援・留意点									
1 スーパーマーケットやコンビニエンスストアのレジに並んだ時に、不満に思ったことはないか意見を述べる。 2 本時のねらいを確認する。 どちらの並び方がよいだろう。 (「効率」と「公正」から判断しよう。) 3 「並び方」のA案とB案を比較し、どちらがよいか自分の考えを記入する。 A案 レジ 客 ← 客 客 レジ 客 ← 客 客 B案 レジ 客 ← 客 客 客 客 ← 客 空いたレジに、前から順に入る。 4 4人程度のグループになり、効率と公正の考え方からA案・B案どちらの並び方がよいかについて話し合う。 5 グループごとに結論を分かりやすく発表する。 6 学習のまとめをする。	・ 実生活における並び方の経験を想起するよう助言する。 ・ A案とB案のそれぞれの良い点と悪い点をあげさせることで、考えを引き出す。 <考えられる良い点、悪い点の例> <table><tr><th></th><th>良い点</th><th>悪い点</th></tr><tr><td>A</td><td>並ぶ列が短くてすむ。</td><td>レジによって会計の速さが異なる。 幅をとる。</td></tr><tr><td>B</td><td>空いたレジから順に入ることができる。</td><td>並ぶ列が長くなってしまう。</td></tr></table> ・ 「効率」とは「無駄を省くこと」であり、「公正」には「手続きの公正」「機会の公正」「結果の公正」など様々な意味合いがあることを踏まえて考えさせる。 ・ 話し合った過程についても発表させる。 ・ 身の回りの似た事例について、「効率」「公正」の視点からまとめさせる。		良い点	悪い点	A	並ぶ列が短くてすむ。	レジによって会計の速さが異なる。 幅をとる。	B	空いたレジから順に入ることができる。	並ぶ列が長くなってしまう。
	良い点	悪い点								
A	並ぶ列が短くてすむ。	レジによって会計の速さが異なる。 幅をとる。								
B	空いたレジから順に入ることができる。	並ぶ列が長くなってしまう。								

評価に当たって

○自分の考えと話し合いによって得られた考えをワークシートに記入させることで、思考・判断・表現について評価します。

留意点及び工夫点

- 本時は1時間扱いとし、前時までに「対立」と「合意」について学習しておきます。
- 政治や経済、国際関係の学習においても、「対立」「合意」「効率」「公正」の考えを用いて授業に取り組むことが大切となります。